

カムイワッカ地区における取組の進捗状況について

トピック

- ・ カムイワッカ湯の滝一の滝以奥の試行事業の実施に伴い、協議会名称の変更及び、専業事業の追加、斜里町商工観光課を事務局として加える規約等の改正を実施した。変更後の協議会名を「知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会」とした。
- ・ 2021 年度マイカー規制/シャトルバス運行について、①5 月に渋滞対策とバス乗換促進の事業（4 日間）、②8 月従来方式のマイカー規制（10 日間）、③10 月幌別地区から新方式のマイカー規制（3 日間）を実施した。実施費用は環境省の国立公園での滞在型ツアー推進事業補助金等を活用した。
- ・ 観光客向けにヒトと野生動物との適切な距離をとる啓発キャンペーンを展開中。8 月のお盆時期及び、10 月のシャトルバス運行時等にグッズ配布等を実施した。
- ・ カムイワッカ湯の滝一の滝以奥の再利用について、7 月にガイド引率型の試行事業Aを、10 月にシャトルバス運行期間と合わせ個人利用型の試行事業Bを実施した。
- ・ 硫黄山登山口間の道路特例使用制度を6月18日～10月3日まで108日間運用。
- ・ 1 年延期となっていたカムイワッカ地区での落石防止工事が今年度実施され、これの影響により、カムイワッカ地区は早期に閉鎖となった（10/4）。併せて不安定転石の除去、岩盤変位観測計の設置工事を実施予定。

1. カムイワッカ地区自動車利用適正化対策

- ・ 2021 年度マイカー規制/シャトルバス運行は、新方式のシャトルバス運行を継続し、国立公園の車両規制のあり方、最適な運用方法、管理運営体制、並びに魅力的な運行方法の検討を行うこと、混雑対策として従来方式のマイカー規制の継続を2021年度～2023年度までの3年程度実施することを踏まえ、次のとおり対策及び、試行事業を実施した。

（5月GW、8月及び10月シャトルバス運行実施結果【詳細は別紙①】）

- ・ 5月は1日～4日までの4日間で交通規制は行わず、既存路線バスに知床自然センター～知床五湖間を往復する臨時バスを増便し、バスへの乗り換え促進試行事業を実施した。
- ・ 8月は7日～16日の10日間で実施、規制区間は例年同様の知床五湖～カムイワッカ間とし、シャトルバス乗車人数は5,500人（昨年比：124%）となった。
- ・ 10月は1日～3日の3日間において、幌別（知床自然センター）～カムイワッカ間の車両規制を誘客イベントとして実施。3日間のシャトルバス乗車人数は総計2,475人（昨年同期比：81%）となった。

（規制期間外の混雑対策）

- ・ 混雑が予想される連休等は関係機関が協力しカムイワッカでの交通誘導を実施した。
- ・ 7月4連休と9月3連休等はいずれも利用が集中し、知床五湖やカムイワッカで混雑、渋滞が発生した。

(キャンペーンの実施【詳細は別紙②】)

- ・「ニンゲンもクマも距離感が大切」をメッセージとした「知床ディスタンスキャンペーン」と銘打った普及啓発キャンペーンを実施中。自然センター等でヒグマとの距離感を図ることのできる「ディスタンスカード」等の啓発グッズを配布中。
- ・今年度は7月に羅臼の交通安全運動に参加、8月は自然センターにテントブースを設けミニイベントを実施、10月のシャトルバス運行期間中はガイドにより説明を行うなど、昨年度に引き続き普及啓発に努めた。

2. 硫黄山登山口利用

- ・道道知床公園線カムイワッカ以奥は落石の恐れがあるため2006年より通行止めだが、硫黄山登山口までは2011年度より道路特例使用制度を運用し、申請した登山者に限り徒歩による通行を認めている。2021年度は6月18日～10月3日まで108日間運用した。
- ・登山者用駐車場スペースの周知強化など、登山者駐車対策を実施。

3. カムイワッカ湯の滝一の滝以奥の再利用検討事業【詳細は別紙③】

- ・カムイワッカ湯の滝は、落石をはじめとした自然現象に由来するリスクが現認されている場所であり、2006年より一の滝上部までを供用区間とし、上流部については立入禁止が続いている。
- ・一の滝以奥の再利用について、2020年度よりカムイワッカ部会等で協議を行い、利用者及び現地管理に関する各種データの収集と分析、管理運営体制の検討と構築を3年程度試行事業として実施することとした。
- ・試行事業の実施については、2020年第2回エコツーリズム検討会議で実施案を提案し、ML上の継続協議において承認を得た(4/30, 9/9)。
- ・7月にガイド引率型の試行事業Aを実施し、利用者数は32組、81人となった。10月はシャトルバス乗車期間と合わせ個人利用型の試行事業Bを実施し、利用者数は132人となった。

4. カムイワッカ部会の開催状況

●第15回カムイワッカ部会：2021年3月4日

- ・カムイワッカ湯の滝一の滝以奥の再利用を協議し、2021年度～2023年度までの3年間の試行事業を実施していくことを踏まえ、7月にガイド引率型の試行事業A、秋季シャトルバス運行期間中に個人利用型の試行事業Bを実施予定とすることを決定した。
- ・2021年度マイカー規制/シャトルバス運行のあり方を協議し、2021年度～2023年度までの3年間の試行事業を実施していくことを踏まえ、5月GWに臨時バス増便による渋滞対策と規制を伴わないバス運行による乗換促進の検討、8月お盆時期の10日間従来方式のマイカー規制の実施、10月の3日間新方式によるマイカー規制の実施を決定した。
- ・幌別以奥の交通アクセスに係る中長期目標と3年後のイメージを確認した。

5. 知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会の開催状況

●2021 年度協議会：2021 年 6 月 10 日

- ・2020 年度自動車利用適正化対策実施結果了承
- ・2020 年度収支決算報告及び会計監査報告了承
- ・2021 年度実施計画及び収支予算案了承
- ・規約等の一部改正を行い「協議会名称、専業事業の追加、斜里町商工観光課を事務局」に追加する改正を実施した。
- ・ルシャ川治山工事の経緯と令和 3 年度の実施状況について確認した。

6. カムイワッカ地区の整備について

- ・2014 年にカムイワッカの滝周辺の仮橋が撤去され、平成 27 年から滝 500m 手前のバス旋回場の運用が開始。現在のところ、特段の支障は生じていない。
- ・網走建設管理部は落石防止のため、カムイワッカ駐車場付近での落石防護柵の補修工事を 10 月 4 日に知床五湖ゲートから先を通行止めとし工事を施工中。カムイワッカ地区は早期に閉鎖となった。
- ・合せて不安定転石の除去、岩盤変位観測計の設置工事を実施予定。

2021年度のマイカー規制/シャトルバス運行に係る事業結果について（速報）

知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会

1. 5月連休の取組み（規制を行わない乗り換え促進）

■ 概要

知床五湖では例年、ゴールデンウィーク期間中に駐車場の入場待ち渋滞が発生する。そのため、今年は同期間中に通常の路線バスに加え、知床自然センターと知床五湖間において臨時バスを増便し、約30分間隔（1日12往復）での運行を行うとともに、渋滞時にも優先的に入場が可能となるバスへの乗り換えを呼びかけた。

■ 実施期間

2021年5月1日（土）～5月4日（火）

■ 運行方法

一日6往復の既存の路線バスに加えて臨時便6往復を運行し、約30分間隔で運行を行った。料金は有料とし、通常の路線バスと同一の価格とした（自然センター⇄知床五湖往復 960円）。

■ 実績

	乗車人数		
	①自然センターで 乗り換えた利用者	②既存の路線バス 利用者	合計（①+②）
5月1日	28	12	40
5月2日	31	5	36
5月3日	22	7	29
5月4日	42	9	51
計	123	33	156

■ 結果

- 期間中は天候が悪く、また新型コロナ感染拡大の影響もあり、入込みそのものが低調であった。特に知床五湖は降雪の影響もあり、大きく落ち込んだ。
- 知床五湖における渋滞は5月2日に最大150m発生した1回のみであり、渋滞抑制の効果等は検証できていない。

2. 8月のマイカー規制およびシャトルバスの運行

■ 概要

例年、夏季のカムイワッカ地区における混雑対策として、道道知床公園線知床五湖ゲート以奥のマイカー規制と、シャトルバスの運行を実施している。また、知床五湖における駐車場入場待ち渋滞の対策として、知床五湖の利用者に対しても、渋滞情報の提供とシャトルバスへの乗り換えの呼びかけを行っている。本年度はお盆期間を中心とした10日間で実施した。

■ 実施期間

2021年8月7日（土）～8月16日（月）（計10日間）

例年、25日間程度としているが、新型コロナの影響により10日間に短縮

■ 運行方法

知床自然センター～知床五湖～カムイワッカ湯の滝の区間を20分間隔で運行した。一部はウトロ温泉バスターミナルおよび斜里バスターミナルとの直通運行を実施。料金は自然センター～カムイワッカ湯の滝往復1,300円。

■ 実績

- 総乗車人数は5,500名となり、同期比較では平年並みか、やや少ない程度の水準に収まっており、コロナ禍においても実績が大きく減少することはなかった(表1)。
- 日別の乗車人数を見ると、今年度のピークは8月12日の991人であった。8月11日は道道知床公園線が降雨で13:00まで通行止めとなり、シャトルバスも13:20の15便からの運行となったため、乗車人数が落ち込んだ。
- 一部シャトルバスには地元ネイチャーガイドが同乗し、知床の自然環境や利用のルール等に関する解説案内を実施した(写真)。



表1 2021年8月のシャトルバス乗車実績

	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年
8/1			271	254	176	277
8/2			258	235	274	136
8/3			333	298	298	353
8/4			376	472	313	329
8/5			375	270	363	355
8/6			393	377	339	324
8/7	336		432	414	355	349
8/8	738		382	343	390	416
8/9	736	648	213	217	559	202
8/10	226	517	701	415	531	411
8/11	333	704	736	490	700	604
8/12	991	695	725	984	918	1,090
8/13	776	642	1,132	1,103	885	809
8/14	678	886	1,204	1,010	947	995
8/15	431	343	792	506	975	220
8/16	255		672	422	860	300
8/17			284	58	674	36
8/18			401	659	469	148
8/19			324	582	317	160
8/20			273	280	317	184
8/21			235	314	287	3
8/22			246	262	272	36
8/23			170	316	309	34
8/24			255	251	250	254
8/25			299	232	297	278
合計（全期間）	5,500	4,435	11,482	10,764	12,075	8,303
平均（全期間）	550	634	459	431	483	332

■ 結果

- 10日間という限定実施に留まったものの、お盆期間は平年同様の混雑が発生したことから、渋滞抑制、混雑防止の意義は認められた。
- コロナ後の実施期間や実施方法、経費負担のあり方について協議が必要。

3. 10月の新方式での取り組み（知床オータムバスデイズ）

■ 概要

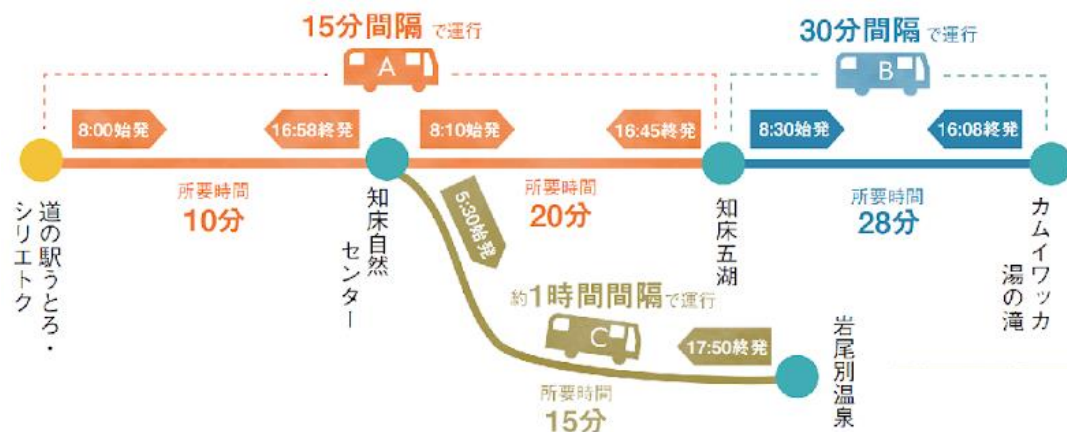
ヒグマ等の深刻化する野生動物とのあつれき対策、新たな観光コンテンツの創出、地域の二次交通網の検討などを目的として、ホロベツ地区（知床自然センター）からの車両規制とシャトルバス（ナショナルパークシャトル）を運行。「知床オータムバスデイズ」として秋のイベントと一体的に実施し、カムイワッカの滝上流部の再利用事業も同時期に実施。

■ 実施期間

2021年10月1日（金）～3日（日）

■ 運行方法

ウトロおよび知床自然センターを乗り換え拠点として、公園内の主要な目的地を3系統のシャトルバスで分担輸送した。また、一部便には地元ネイチャーガイドが同乗し、知床の自然環境や利用のルール等に関する解説案内を実施した。運賃は全便無料。



■ 実績

- ナショナルパークシャトルの総乗車人数は2,475名となり、昨年比82%と2割程度減少した。これは、緊急事態宣言の解除直後であり、観光客数そのものが少なかった点、10月2日は降雨による影響があった点が要因として考えられる。一方、10月3日は晴天となり過去最高の乗車人数となった(表2)。
- 岩尾別温泉に至るC系統は5割程度増加した。これは、便数を増加した点や、宿泊利用、登山利用が多かった点が要因として考えられる。
- 知床自然センターの駐車場は満車になることなく、期間中にはある程度の余裕があった。

表2 10月のバスデイズ期間における日別のシャトルバス乗車人数

	1日	2日	3日	合計	昨年比
A系統	379	404	851	1,634	77%
B系統	162	146	409	717	86%
C系統	42	45	37	124	157%
合計	583	595	1,297	2,475	82%

■ 結果

- 緊急事態宣言の影響により、実施判断が難しく、準備・広報等も直前となったが、概ねスムーズに現場運用が行われた。
- 期間中、野生動物との軋轢や交通障害等は改善したことが確認された。
- カムイワッカ湯の滝上流の利用、岩尾別ふか場の限定ツアー、ガイドによる解説などを一体的に実施し、交通と組み合わせた観光コンテンツのあり方について検討した。

4. モニタリング等

- 北海道大学と共同で各種モニタリングを実施。5月、8月、10月のシャトルバス運行期間に加え、9月の規制期間外においても利用者の意識調査を実施。
- 10/14現在で、827のサンプルを取得(下表)。

	対象	サンプル回収数
5月(4日間)	シャトルバス利用者	8件
8月(5日間)	シャトルバス利用者	113件
	シャトルバス非利用者	81件
9月(8日間)	規制期間外の利用者	340件
10月(3日間)	シャトルバス利用者	285件
	シャトルバス非利用者	

- 駐車場の駐車時間、湯の滝の試行事業に係るデータ取得も行っており、これらを含めたデータ整理、解析作業を今後進める。

令和3年度 知床ディスタンス！キャンペーンの実施結果について

● 実施概要

知床国立公園は、野生動物が豊かに生息するがゆえに利用者との軋轢が発生しやすい場所となっている。公園内に生息する野生動物本来の生態を攪乱することなく、利用者が安全に楽しめる公園利用を実現するため「ニンゲンもクマも距離感が大切」をテーマに、「知床ディスタンス（野生動物との距離感）」の普及・浸透を図り、知床国立公園における利用ルールや行動規範として「野生動物を見つけても接近しないこと」が常識として認知されることを目的とした、普及啓発活動「知床ディスタンス！キャンペーン」を昨年7月より継続して実施している。

● 実施主体

- ・適正利用エコツーリズム検討会議 カムイワッカ部会（主催）
- ・カムイワッカ地区利用適正化対策協議会（連携協力）
- ・ヒグマ対策連絡会議（連携協力）
- ・公益財団法人 知床財団（キャンペーン運営事務局）

● 実施内容

1) ディスタンスカードの配布

・ビジター施設等でのカード配布

知床世界遺産センター、知床自然センター、知床五湖フィールドハウス、羅臼ビジターセンター、ルサフィールドハウスの来館者に対し、利用案内・館内展示・キャンペーン展示等と併せてカードを配布する他、映像視聴者やレクチャー視聴者への配布を行っている。



五湖 FH でのキャンペーン展示の様子

・マイカー規制期間のシャトルバス利用者へのカード配布

8月マイカー規制期間のシャトルバスチケット販売時や、9月連休中の知床五湖駐車場入場待ち渋滞車両へのアンケート配布時、10月の知床オータムバスデイズ期間のシャトルバス利用者にディスタンスカードの配布を行った。特に10月のバスデイズ期間については、道の駅うとろ・シリエトク、知床自然センター、知床五湖に等身大クマパネルを設置し、バスの待ち時間に知床ディスタンスキャンペーンに関する解説を実施した。



シャトルバス利用者へのディスタンスカードの配布（知床オータムバスデイズ）

2) 普及啓発物の配布・掲示・上映

・キャンペーンチラシの配布、ポスターの掲示

ビジター施設や道の駅・宿泊施設といった観光関係施設にチラシやポスターを設置し、キャンペーンやディスタンスカードの周知を行っている。



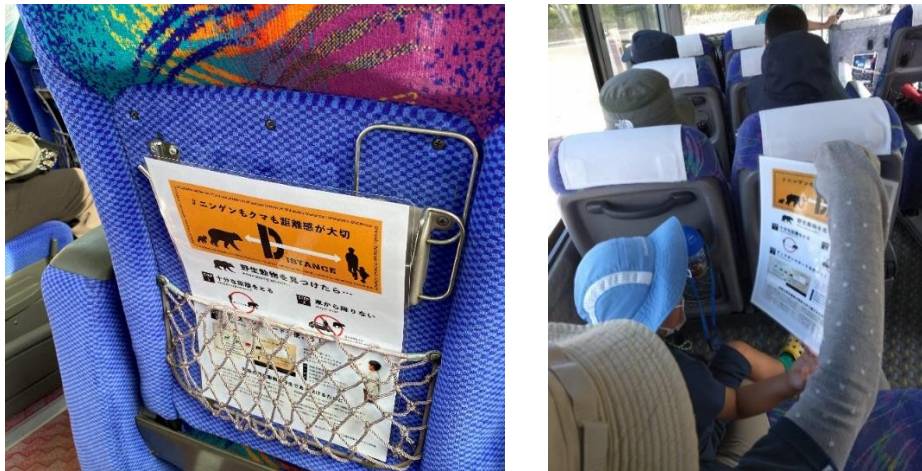
キャンペーンチラシ



キャンペーンポスター

・バス車内での普及啓発資料の配置

8月および10月のシャトルバス運行期間中、運行事業者の協力を得ての車内座席に普及啓発資料を配置した。



バス車内に普及啓発資料を配置

・キャンペーン広報マグネットシートの作成（新規の取り組み）

野生動物との適切な距離を保つことに関する普及啓発を目的として、ディスタンスキャンペーンのロゴをデザインしたマグネットシートを作成し、現地ヒグマ対策を行う知床財団や関係機関（環境省・北海道・林野庁・斜里町）の車両に貼付し、普及活動を行っている。



知床ディスタンスキャンペーンのマグネットシート

・キャンペーン関連映像の上映

ビジター施設にて、キャンペーンに関連した映像「～B☆B が教える～ヒグマに出会った時のスリーアウト」を知床五湖フィールドハウス、知床自然センターで上映し、普及啓発やキャンペーンの広報を実施している。



知床自然センターでのキャンペーンに関連した映像の上映

3) Web サイトや SNS での情報発信

・Web サイトでの情報発信

知床のヒグマ情報を取り扱うポータルサイト「知床のひぐま」にキャンペーン情報や関連映像を掲載し、普及啓発やディスタンスカードの広報を行っている。



「知床のひぐま」サイトでのキャンペーン広報

・SNSでの情報発信

各ビジター施設が運営する SNS にてチラシやイラスト等の発信によるキャンペーンやディスタンスカードの周知広報を行っている。また、走行中にヒグマと遭遇した際の行動指針を示した4コマ漫画等を作成した。



Twitter での配信の様子

4) 道路電光掲示板での注意喚起

・国道334号線、道道知床公園線での注意喚起

道路管理者に協力を得て、7月下旬より国道334号線や道道知床公園線の電光掲示板に「ヒグマを見ても車から降りない」旨の注意喚起文を掲示いただいた。



国道334号線の電光掲示板でのヒグマ注意喚起表示

5) 普及企画イベントの実施

・交通安全運動、知床峠開通式での普及啓発（新規の取り組み）

羅臼町で開催された交通安全運動や知床峠の開通式にて、ディスタンスキャンペーンのチラシやカードなどを観光客へ配布したほか、横断幕を掲出しキャンペーンの広報を実施した。



羅臼町での交通安全運動



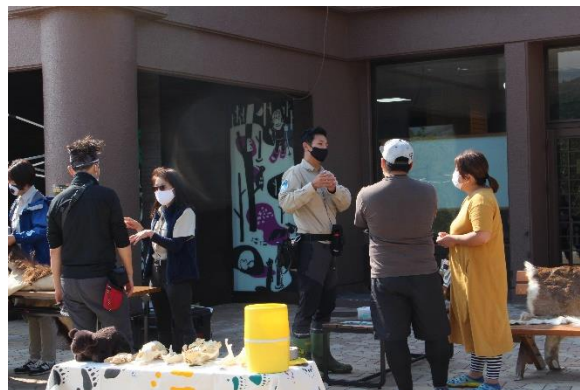
知床峠の開通式

・知床自然センターでのイベント開催（新規の取り組み）

8月に知床自然センターにて知床ディスタンスキャンペーンとヒグマの普及啓発イベントを実施した。ヒグマの学習キットを用いて生態の説明を行ったほか、イベント参加者約100名にディスタンスカードやノベルティグッズの配布を行った。



ヒグマと取るべき距離のレクチャー



学習キットを使ったヒグマの生態の説明

2021年度 カムイワッカ湯の滝1の滝以奥

再利用検討事業 報告

斜里町
知床斜里町観光協会

1. 2021年度事業報告

(1) 前回会議から事業実施に至る経緯

- ・ 2021年2月1日、エコツーリズム検討会議で計画概要説明。カムイワッカ部会及びML（メーリングリスト）での承認が条件とされる
- ・ 2021年3月4日、カムイワッカ部会で計画概要説明、承認
- ・ 2021年3月下旬～4月下旬、ML上で議論。4月30日、ML上で試行事業A承認
- ・ 2021年6月28日、専門家レビュー
- ・ 2021年7月1日～20日、試行事業A実施
- ・ 2021年8月下旬～9月上旬、ML上で議論。9月9日、Web会議で試行事業B承認
- ・ 2021年10月1日～3日、試行事業B実施

(2) 試行事業結果概要

項 目	試行事業 A	試行事業 B
1) 形態/タイプ	ガイド引率型	個人利用型
2) 試行期間	7/1～7/20 (計画は 6/21～7/20。コロナ禍により 10 日遅れ)	10/2～10/4
3) 特徴・コントロール	登録引率者資質、研修、ガイドラインによって、安全を確保	事前情報周知・誓約、レクチャーによって、自己責任にもとづく利用を徹底
4) 現地管理体制	1～2 名	5～7 名
5) 立入人数	32 組・81 名	151 名 (10/1 : 42 名、10/2 : 37 名、10/3 : 72 名)
6) アンケート調査回収数	57 件	128 件
7) 怪我・トラブル等	なし	なし
8) その他特記事項	ガイド引率者研修・安全管理研修開催	シャトルバスと連動 更衣室、荷物預かりサービス提供

(3) 試行事業 A：計画と実績の概要

項 目		計 画	実 績
1. 基本事項			
1) 目的	ガイド引率による課題抽出、ルール・管理運営体制の検討	一連のフローを概ね計画通り構築・実施。意見交換実施。課題抽出・検討作業は今後	
2) 試行期間・天候	2021 年 6 月 21 日～7 月 20 日	2021 年 7 月 1 日～7 月 20 日 コロナ緊急事態宣言によって、専門家レビューが 1 か月遅れ、事業開始も 10 日遅れ	
3) ガイド引率者要件、登録者数	要件 5 項目	計画通り 登録者 12 社 20 名	
4) 引率可能人数	6 名まで	遵守	
5) 入渓時刻	8:30～16:30	遵守	
6) 安全装備	ヘルメット着用、無線機携行	遵守	
7) 協力金	1 名 1,000 円	有料参加者全員から徴収済	
2. 予約・申し込み			
1) 予約方法	Web サイト	観光協会 Web サイトや観光案内所で事業周知。フリー客は、催行予定のガイド事業者を紹介。ガイド事業者は、自社顧客を中心に紹介	
2) ツアー形態	各社	カムイワッカ単独催行会社 2 社。その他は周遊組み込み	
3) 受付手続き	自然センター常設カウンターにて、ブリーフィング等	計画通り	
4) 移動	各社	計画どおり。各社。現地集合解散の事業者あり	
5) 帰着報告	自然センター常設カウンターにて、ヘルメット回収、アンケート依頼など	計画通り。トラブルなし	
3. 現地管理			
1) 現地管理体制	1 名配置	6/21～7/20 の間、1～2 名配置。主に道路上で総合案内、補助	
2) 安全管理全般	ガイドラインによる	ガイドラインに従って、各事業者が責任をもって対応	
3) 特記事項	一般利用者への指導を兼ねる。知床財団担当。	規制ラインを超える一般利用者が数件。通信体制の構築に課題。	
4.利用動態・アンケート			
1) アンケート調査	全数調査	参加 81 名中 57 名から回収	

(4) 試行事業B：計画と実績の概要

項 目		計 画	実 績
1. 基本事項			
	1) 目的	個人利用に向けた管理運営体制の検討と構築	一連のフローを概ね計画通り構築・実施。検証作業は今後
	2) 試行期間・天候	2021 年 10 月 2～4 日	計画どおり 3 日間実施。 10 月 2 日の午前中に雨。それ以外は概ね晴れ
	3) 立入年齢	中学生以上	遵守
	4) 1 グループ上限人数	6 名まで	遵守
	5) 予約管理、1 日利用上限人数	レクチャー受講枠で制御 1 日最大 100 名まで	予約システム・レクチャー受講枠によって管理 上限人数遵守（最大 72 名）
	6) 説明・同意	重要事項説明 誓約書サイン	予約及び受付時に重要事項説明書を提示・説明。全員サイン
	7) 協力金	1 名 1,000 円	個人利用者全員から徴収済。 ツアー分は今後請求
2. 予約・申し込み			
	1) 予約方法	Web サイト	Web 上に簡易な予約フォームを構築・運用。トラブルなし
	2) レクチャー枠	1 日 3 回 9:00,10:00,13:00、各 25 名	計画通り。レクチャー場所の混雑緩和のため、2 回に分けて開催した時間枠あり
	3) 受付	センター内の特設カウンター	計画通り
	4) レクチャー	映像を用いて 10 分程度	計画通り。動画、写真を活用したレクチャー。ヘルメット装着実演
	5) 移動	シャトルバスを用いた自由移動	計画通り。トラブルなし
	6) 帰着報告	ヘルメット、GPS ロガー回収。 アンケート記入依頼	ヘルメット、GPS は全数回収。 アンケート数名分未回収
3. 現地管理			
	1) 現地管理体制	5 名配置	5～7 名配置。 (クマ出没対応中に)4 の滝ラインが数名不在となり、1 名が規制ラインを突破。5 の滝まで行かれる事案発生
	2) 現地サービス	仮設更衣室検討	仮設テントによる更衣場所提供：約 6～7 割の人が利用 荷物預かりサービス提供：約 7～8 割の人が利用
	3) 特記事項		全裸入浴への対応 履物（裸足、靴下の是非） マイヘルメット容認の是非 5 の滝要望

項 目		計 画	実 績
4.利用動態・アンケート			
1)	アンケート調査	全数調査 試行Aとの比較可能な設計	ツアーを除く一般参加者 132 名 中 128 名から回収。 単純集計まで終了。今後、試行A との比較やクロス集計
2)	利用動態調査	受付から帰着までの行動把握	ヘルメットに GPS ロガーを装 着。サンプル数：64。現在分析 中。北大全面協力
3)	交通との関係	シャトルバスアンケートとの連 携	今後解析

2.（2024 年度以降に向けた）試行事業期間中の検討事項【計画書記載事項】

事業期間後の本格運用への移行を見据え、事業期間中には、以下の事項等に関し、詳細な協議検討を行う。

- ① 事業主体や実施運営体制
 - ・事業主体・体制
 - ・事業運営経費
- ② 管理運営方針・基準
 - ・供用区域・立入禁止区域設定
 - ・開閉基準
 - ・巡回・監視・管理体制
 - ・救護救援体制
- ③ 利用者データ分析や地質調査など
 - ・利用者動向調査（滞留時間等）
 - ・利用者アンケート調査（危険性認知、訪問期待度・満足度等）
 - ・専門家による地質的調査

上記の計画書に記載の項目に沿って、カムイワッカ部会及び事務局会議の場を活用して検討を進めていく。

令和4年度（2022 年度）の試行事業の実施内容（期間・方法等）は、今年度の調査結果を踏まえ、次回の検討会議で提案し、協議を求める予定としている。

カムイワッカ湯の滝
遡行概念図
2021年6月

100m

登山道
展望地
c.480m

硫黄山登山道



3の滝 7m

高さがあり、登下降に注意を要する。左岸側を水線沿いに登るのがよい。ホールドは豊富だが、トラバース的な動きが混じるため、下りはルート指示が重要。岸に寄りすぎるとはまる。右岸側も使える。



2の滝 3段15m

規制ロープを超えるとすぐに1段目。左岸は垂壁の草付きで使えない。右岸側を適当に巻く。巨岩付近のオーバーハング帯は脆く、注意。2段目以降もホールドは豊富。登下降の練習にもよい。集合・解説は安定した場所で。



1の滝 2段10m

左岸側を登る。岸に寄りすぎると滑るため、流れのあるところを登降する。下りは慎重に。自信がなければクラムダウンで。

